城南家保ニュース　Vol.21-6

熊本県城南家畜保健衛生所　　平成２１年　９月　発行

http://www.pref.kumamoto.jp/site/179/

電　話　0966−22−3814　、FAX　0966−22−3617

肉用牛放牧推進会議が開催されました。

平成２１年度９月１０日、芦北地域振興局において肉用牛放牧推進会議が開催されました。水俣市の友田牧場、球磨郡あさぎり町の磯田牧場など、県内放牧の優良事例や、放牧技術の基本から耕作放棄地解消に係る事業紹介も交えた今後の芦北水俣地域における畜産振興のあり方が話し合われました。

・放牧の長所

１）　飼料給与の低減（ｺｽﾄ 20～50%削減）、ふん尿処理などの省力化（労働時間 40～70%削減）：九州農政局より

２）　肉用牛の健康増進、耐用年数の延長による素牛更新にかかるｺｽﾄ削減

３）　運動により明確な発情の発現、受胎率の上昇

４）　耕作放棄地の解消により中山間地の活性化推進につながる。

・放牧で注意すべきこと

１）　衛生対策（小型ピロプラズマ病）

２）　有毒植物対策（ワラビ、ユズリハ、キョウチクトウなど）

３）　脱柵の危険性や崖からの墜落死

４）　環境への配慮

小型ピロプラズマ症について！

この病気は、ダニの寄生により牛の血液に原虫が感染することで、赤血球が破壊され重度の貧血を起こす病気です。10 年くらい前からは、殺ダニ剤の投与により貧血で死亡する牛や、ダニの寄生は減少しました。主なダニ対策としては、殺ダニ剤（ﾌﾙﾒﾄﾘﾝ製剤：商品名ﾊﾞｲﾁｺｰﾙ）の投与で、投与期間は入牧時から２～３週間おきに背中に塗布する方法（ﾌﾟｱｵﾝ法）などがあります。完全な殺ダニ効果が得られるには放牧期間中実施することが必要です。

（詳しくは、最寄りの家畜保健衛生所へ）

知っ得コーナー

フタトゲチマダニとは？

・主なものとして、①ｳｼﾏﾀﾞﾆ属②ﾁﾏﾀﾞﾆ属③ﾏﾀﾞﾆ属があり、ﾌﾀﾄｹﾞﾁﾏﾀﾞﾆは②に属します。赤褐色を呈し、日本全土に生息します。唾液腺に潜むピロプラズマ原虫を保有するダニが、牛を吸血することにより血液を介して媒介します。すべてのダニがピロプラズマ原虫を保有するわけではないので、高度汚染牧野であれば1～2年の休牧期間によりダニが原虫陰性となり、清浄牧野となる可能性があると云われています。もともと野生の動物とダニとの間で営まれている生態系内に放牧などの形で新たに牛が入ることによって起こる疾病です。他にもバベシア原虫を保有するﾌﾀﾄｹﾞﾁﾏﾀﾞﾆによって媒介される病気に大型ピロプラズマ病があります。なお、オーストラリアではﾌﾀﾄｹﾞﾁﾏﾀﾞﾆがQ熱の病原体を媒介することも知られています。